

部内資料

農村出稼者の妻の生活と意識

—出稼留守家庭に関する調査結果報告—

労働省婦人少年局

最近農村からの出稼をめぐる問題が社会の関心をよんでおります。婦人少年局では、特に農村婦人の福祉の面からこの問題に注目し、すでに農村地域担当婦人少年室協助所を設置するなどの対策を行っておりますが、さらに実情を明らかにして、今後の施策に役立てるために農村出稼家庭調査を実施いたしました。この調査は、出稼の問題を留守家族とくに主婦の側からみようとするもので、夫の出稼という事態が妻の生活にどのように影響しているか、夫との連絡はどのように保たれているか、留守家族のくらしや夫の出稼について妻がどう考えているか、などの点を明らかにすることを意図しています。

調査は留守家族の妻を主体としていますが、留守家族との関連で夫の側の調査も実施いたしました。

この調査の結果が農村婦人の問題に関心をもたれる方々の御参考になれば幸いと考えます。

この調査の実施にあたって、道、県、職業安定機関、農業委員会、市町村役場の方々、又調査対象者を雇用する各事業主、並びに対象者の方々多大の御協力を得ましたことを深く感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。

1966年7月

労働省 婦人少年局

目 次

調査実施の要領	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の地域および調査の時期	2
3. 調査の方法	3
4. 調査事項	3
調査対象者および世帯の概況	3
1. 対象者および世帯の状況	3
2. 農業経営の状況	6
3. 夫の出稼の状況	7
調査結果の要約	15
調査結果	18
1. 出稼者と留守家族の連絡状況	18
(1) 夫の休暇、帰省	18
(2) 妻の面会	20
(3) 夫からの便り	21
(4) 留守家族より夫への便り	22
(5) 夫からの送金方法	24
(6) その他の連絡方法	25
2. 出稼が家庭におよぼす影響	26
① 家計への寄与	26
(2) 妻にかかる負担	29
1. 営 農	29

ロ. 家庭管理	30
ハ. 社会生活	32
(3) 小、中学生の子供への影響	34
(4) 夫不在のため困ること	35
イ. 営 農	38
ロ. 家 事	38
ハ. 社会生活	38
ニ. その他	38
(5) 夫留守中の妻の相談相手	39
(6) 郷里に関する夫の気ばかり	40
3. 出稼中の夫の生活と妻の心配	42
(1) 病気、怪我	42
(2) 職場の人間関係	42
(3) 小づかいの額と主なる使途	43
(4) 余暇の過ごし方	44
(5) 職場や日常生活で困ることの有無	45
4. 出稼に対する夫と妻の意識	46
(1) 今後の出稼希望 (夫および妻)	47
(2) 出稼や留守家族に対する意見	49

調査実施の要領

1. 目的 農村出稼労働者の増加に伴う諸現象は、農村婦人とその家庭生活に各種の影響をおよぼしているとみられるので、出稼者の妻と他出している夫の生活と意識を調査してその問題点をあきらかにすることを目的とした。

2. 調査の地域および調査の時期。

この調査は留守家族調査及び出稼者調査の二つに分けられるが、その地域及び対象は次のとおりである。

(1) 留守家族調査

青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟、長野、兵庫、徳島、愛媛、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、の16県において各1カ市町村を選定し各地点において出稼労働者の妻20名を対象として昭和40年12月に実施した。

集計は回収された316票について行なった。

調査地点として選定された市町村は次のとおりである。

県名	調査地点	県名	調査地点
青森	北津軽郡金木町	兵庫	多紀郡篠山町
岩手	二戸郡安代町田山地区	徳島	三好郡池田町
宮城	王造郡岩出山町	愛媛	北宇和郡松野町
秋田	由利郡島海村	長崎	平戸市大久保町
山形	北村山郡大石田町	熊本	上益城郡甲佐町
福島	安達郡安達町	大分	竹田市
新潟	岩船郡神林村	宮崎	西諸県郡野尻町
長野	飯山市	鹿児島	薩摩郡樋脇町

調査結果は上記の地点を米の単作地域（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟、長野、兵庫）とその他の地域（徳島、愛媛、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）にわけて集計した。

地域別対象者数	総数	単作地域	その他の地域
	316	179	137

(2) 出稼者調査

(1)の対象者の夫を対象として、その就労先事業所の所在地において昭和41年2月実施した。対象は(1)によって回収された316票のうち夫の連絡先が判明している者295名について行ない、集計は回収された173票について行なった。これを出身地の地域別にわけると次のようになる。

地域別対象者数	総数	単作地域	その他の地域
	173	116	57

回収状況および調査不能となった理由は下記のとおりである。

調査対象者総数	調査票回収数	調査不能計	調査不能理由									
			事業所確認できず	事業所一現場を含む肉類	当該事業所に雇用事実なし	現在雇用中				退(転)職		
						一時帰省中	病弱面接が不能	県外現場配転	調査拒否	帰郷	県外転職	転職先不明
295	173	122	15	6	8	4	2	4	1	68	4	10

3. 調査の方法

婦人少年室職員による面接調査

4. 調査事項

(1) 留守家族調査

家族構成、就業状況、夫及び家族員の出稼状況、夫との連絡状況、夫の出稼が家庭に及ぼす影響、出稼についての意識等

(2) 出稼者調査

就業状況、郷里との連絡状況、留守家族及び現在の生活に関する安心感等。

なおこの調査で「出稼」とは「農業従事者が30日以上、一定期間を限って生活の本拠である住所とはなれて、自家農業以外に就業し、期間終了後その住所に復帰すること」をいい、「現在出稼中」とは調査時点において他出後30日以上経過していなくても、その予定のものを含めた。

調査対象者および世帯の概況

1. 対象者及び世帯の状況

○年令別

	総数	20才代	30才代	40才代	50才代	60才以上	不明
妻	316	50	132	109	22	2	1
夫(出稼者)	316	28	107	133	36	10*	4

(留守家族調査)

夫(出稼者)の最高年令上位より

68才 (鹿児島出身 ビル掃除)

(3)

66才 (愛媛出身 土木)

64才 (宮崎 土木)

63才 (兵庫 社 氏)

上表のうち出稼者調査の対象となった夫の年令は次のとおり

夫総数	20才代	30才代	40才代	50才代	60才以上
173	13	68	65	19	8

(出稼者調査)

○夫(出稼者)の世帯上の地位別

総数	世帯主	農業後継者	その他
316	232	78	6

(留守家族調査)

○家族型別

総数	基本世帯 (夫婦と子供)	複合世帯 (その他の家族を含む)
316	131	185

(留守家族調査)

基本世帯と複合世帯の割合は、単作地域では34%と66%であるが、その他の地域では52%、48%である。

○世帯人員別

総数	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	平均
316	3	19	50	78	78	48	22	12	5	1	5.9

(留守家族調査)

単作地域の平均世帯人員は5.9人、その他の地域は5.5人である。

(なお、昭和39年の全国農家平均世帯員は5.36人である)

—農家経済調査—

(4)

○ 1世帯当り出稼者数別

総 数	1 人	2 人
316	289	27

(留守家族調査)

1世帯から2名出稼を出している世帯は

「単作地域」では11%

「その他の地域」では5%である。

1世帯2名の出稼の内訳は次のとおりである

夫と子	19	夫と長男 〃と二男 〃と長女	15 3 1
夫とその父	4		
夫とその他 の家族	4	夫と夫の弟 夫と夫の妹 夫と本人の兄	2 1 1

妻の就業の有無別

総 数	農業従事者			その他の有職者					家事従事者		
	小 計	副業なし	副業あり	小 計	失 対 人 夫	助 産 婦	給 食 婦	商 業	小 計	副業なし	副業あり
316	301	231	70	5	2	1	1	1	10	9	1

(留守家族調査)

イ) その他の有職者は「その他の地域」のみである。

ロ) 副業のうちわけは下表のとおりである。

副業あるものの総数	雇用労働(臨時・季節・パートタイム)										その他(M.A)					
	小計	土工 人夫	家事婦 担役婦 板みぎ	農業(自家農業以外)	工員 (竹製品 手袋 製瓦 その他)	真珠養殖	電話交換手	新聞配達	近所の手伝い(家事)	不明	小計	依頼み ない	竹細工 する細工	凍豆腐 豆腐製造	大工 やねふさ	商業(野菜 菓子 日用品)
71	51	14	7	8	4	2	1	1	3	11	20	8	5	2	2	3

(留守家族調査)

2. 農業経営の状況

○ 至営耕地面積
規模別

総 数	1 反 未満	1 反 ~ 5 反	5 反 ~ 1 町	1 町 ~ 2 町	2 町 以上
316	註1) 11	82	108	93	22

(留守家族調査)

注1) 1反未満のうち至営耕地面積0のものが8件(単作地域1、その他の地域7)あり。

単作地域では、1町以上のものが56%をしめ、その他の地域では1町以下のものが90%をしめている。

昭 38.の北海道を除く都府県の構成比は1反以下70%、1反以上30%である。) — 農林省農業調査 —

○経営形態別

総数	田作	田畑作	畑作	野菜作	田とその他	田畑とその他	畑と草地	複合
316	83	126	27	7	19	37	6	11

(留守家族調査)

注) その他は養蚕、果樹、野菜、酪農、養鶏、養豚等のうち、複合はそれらの2～3の組合せである。

○農業所得階層別

総数	5万円以下	5万円～20万円	20万円～40万円	40万円～60万円	60万円～80万円	80万円以上	不明
316	48	105	82	36	11	11	23

(留守家族調査)

60万円以上は単作地域のみで、100万円以上が8件である。5万円以下には農業所得〇と答えたものが16件(単作地域3、その他の地域に13)ある。

(なお、昭和39年の全国平均は31,9万円である—農林省農家生活調査—)

3. 夫の出稼の状況

○就労至路別

総数	取安	縁故	募集	直接	不明
316	55	221	17	20	3

(留守家族調査)

注) 「縁故」---知人、友人、親せきの紹介によるもの
「募集」---事業所の直接募集又は委託募集によるもの
「直接」---本人が事業所へ直接申し込んだもの。

地域別にみると「単作地域では23%が取安の紹介によって、」
「その他の地域」では10%が取安の紹介である。

総数	取安	縁故*	募集	直接
173	30	119	8	16

(出稼者調査)

注) *縁故には、「社友組合および社友のせわ」を含む。

○出稼業種別

総数	建築業	製造業	サービス業	林業	水産業	卸小売業	運輸業	鉱業	その他
316	237	52	9	7	3	3	2	1	2

(留守家族調査)

総数	林業	漁業	建設業	製造業	卸小売業	運輸業
173	7	2	113	46	3	2

(出稼者調査)

○出稼職種別

総数	土工	大工	雑役	酒造工	その他の工員	事務	代採り材	その他
173	79	14	19	19	25	3	6	8

(出稼者調査)

注) 1. その他の工員---
石材研磨工、ヤンキエ、配管工、プレス工、成型工、仕上工

板金工、印刷製版工、検査工、機械すえつけ工、梱包工、こんにやく製造工、製麺工、金型工、鍛造工、熱処理工、組立工、標系機械工。

2. その他 ----- { 指導員、トラック運転手、そば出前、荷役、夜警、調理士のり採取

○出稼前歴の有無及び前歴回数別

総数	前歴なし	前歴あり(前歴回数)									
		小計	1回	2回	3回	4回	5回	6回	10回	20回以上	不明
316	47	269	39	54	37	32	22	24	27	11	3

(留守家族調査)

総数の85%が出稼前歴をもっているが、地域別には「単作地域」では89%「その他の地域」では80%、前歴出稼の回数も単作地域の方がその他の地域よりも多くなっている。

総数	前歴なし	前歴あり(前歴回数)									
		小計	1回	2回	3回	4回	5回	6回	10回	20回以上	不明
173	31	142	7	33	19	16	13	24	17	12	1

(出稼者調査)

○出稼後の移動状況別

総数	すべり	勤務先をかわった ^{注)1}					住居をかわった ^{注)2}				
		小計	1回	2回	3回	20回以上	小計	1回	2回	3回	10回以上
173	147	12	8	2	1	1	14	6	1	4	1

(出稼者調査)

- 注)1. 勤務先をかわった主な理由は、仕事なくなった、給与のよいところへかわった等である。
2. 住居をかわった理由としては、現場移動によるもの、他現場への配転によるものなどである。

○今出稼予定期間別

総数	3カ月未満	3カ月以上6カ月未満	6カ月以上9カ月未満	9カ月以上1年未満	1年以上	不明	平均(ヶ月)
316	36	189	43	10	10	28	5.1

(留守家族調査)

「単作地域」では、6ヶ月未満の期間を予定しているもの87% (9ヶ月未満の予定は94%)であるが、「その他の地域」では50% (73%)であり、平均月数も「単作」が4.3ヶ月、「その他」は6.2ヶ月となっている。
「その他の地域」では15%が不明である。(総数では9%)

1ヶ年以上のうちわけは期間別にみると

40カ月以上 2件
30カ月 1件
20カ月 1件

(P)

12カ月以上/8カ月 6件

で、うち、8件を「その他の地域」が占めている。

総 数	3 カ 月 未 満	3 カ 月 以 上	6 カ 月 未 満	6 カ 月 以 上	9 カ 月 未 満	9 カ 月 以 上	1 カ 年 未 満	1 カ 年 以 上	不 明	平 均
173	5	116	21	5	10	16	6.5月			

(出稼者調査)

なお、留守家族調査の妻の答によつて夫が出稼前歴を有する269について前回の出稼期間をみると次の通りであるが、この場合も「その他の地域」の期間が「単作地域」に比し長い。

出 稼 前 歴 あ る もの の 総 数	3 カ 月 未 満	3 カ 月 以 上	6 カ 月 未 満	6 カ 月 以 上	9 カ 月 未 満	9 カ 月 以 上	1 カ 年 未 満	1 カ 年 以 上	不 明
269	30	166	56	10	7				

(留守家族調査)

○ 今次出稼後
の(調査時点
までの)至週
日数別

総 数	10 日 未 満	10.30 日 以 上	30 日 未 満	30.3 カ 月 未 満	3 カ 月 以 上	6 カ 月 未 満	6 カ 月 以 上	1 年 未 満	1 年 以 上
316	11	95	150	30	22	7			

(留守家族調査)

総 数	30 日 以 上	3 カ 月 未 満	3 カ 月 以 上	6 カ 月 未 満	6 カ 月 以 上	9 カ 月 未 満	9 カ 月 以 上	1 年 未 満	1 年 以 上
173	92	47	8	6	17				

(出稼者調査)

注) 出稼者調査時点は、留守家族調査時点より約2カ月
至週後である。

○ 調査対象者(夫)の出身県と出稼先

		夫の出稼先														
		総 数	都 道													
			小 計	北 海 道	宮 城	山 形	栃 木	埼 玉	千 葉	東 京	神 奈 川	新 潟	福 井	長 野	岐 阜	静 岡
出 身	計	316	295	8	1	1	1	6	6	50	61	6	2	2	11	11
	青 森	24	24							11	11			1		
	岩 手	20	19	6	1			1		1	3					
	宮 城	20	17	2		1			1	5	7	1				
	秋 田	20	20					1	1	3	14					1
	山 形	18	18					2	1	6	4					2
	福 島	17	14					1	2		11					
	新 潟	20	20							4	3				4	
	長 野	20	20						1	13	2	2				1
	兵 庫	20	20				1									
	徳 島	20	18										1	1		
	愛 媛	20	20							1					6	
県	長 崎	19	15													
	熊 本	20	18							1						
	大 分	19	19							5		3			1	
	宮 崎	20	14								1					
	鹿児島	19	19					1			5		1			

(注) 連絡先不明の理由のうちわけは次のとおりである。

1. 出発後日が続く、行先からの連絡まちのもの(5件)ロ、手紙は来たが住
- 夫が滞留中で再出稼の就労場所不明のもの(2件)ホ、夫の行先をきいたが控えて
- ケ、直ぐ帰ることが分っているもの、リ、音信不通の行方不明のもの各1。

(19)

(出 身 家 族 調 査 に よ る)

府 県															そ の 他			
愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	広島	徳島	愛媛	高知	福岡	長崎	熊本	大分	小計	県内出張	連絡先不明
20	1	1	10	31	25	4	7	2	3	8	8	3	2	1	3	21	3	18
		1																
																1		1
																3		3
3																		
																3		3
7				1						1								
1																		
			10			2			3	3			1					
				4	1			2		4	2			1	2	2	1	1
5				2	3						3							
				6		2	5									4		4
1				7	7							2				2		2
				6	2							1	1					
				1	7		2				3					6	2	4
1	1			4	5										1			

所をわすれたもの(3件)ハ、送金はあるが住所が分らぬもの(3件)ニ、調査時欠
ないもの、ヘ、作業場がしばしば移動するもの、ト、近く取場移動の予定で詳細不明のもの

(14)

調査結果の要約

1. 出稼者と留守家族との連絡状況

出稼者と留守家族との間に、どの程度緊密な連絡がとれているかについては、次のような実が注目される。

- 夫の連絡先について、音信不通の行方不明はノ件のみであるが、夫の出稼前に連絡先が明らかでなくとも、また、夫の居所が不明であっても、送金さえあれば妻は大して気にしていない風がある。
- 出稼者の約²/₃は、出稼期間の途中で休暇等により帰省している。
- 出稼者と留守家族との間の交信は、出稼期間によって異なるが、それぞれ、月1～2回の頻度で行なわれているものが50～80%をしめている。しかし中には、出稼期間中交信のないものもあった。
- 出稼者の約⁷/₁₀割は出稼期間の途中で、留守宅に送金しており、約女は途中送金によらず、出稼期間満了後持ち帰っている。途中送金の頻度は、送金するものの約半数が月1回程度で、あとの半数はそれ以下である。しかし中には送金について妻がわからないというものが16ある。

2. 出稼が家庭に及ぼす影響

夫が出稼をしていることによって、その妻および家族はどのような影響を受けているかを、家計に及ぼす影響、妻の精神的労力的負担、子どもへの影響などからみて、次のような実が注目される。

- 今次の出稼によって家に入れる（と妻が期待している）平均金額はノ世帯当リ⁴⁴、⁴⁴ノ²円、これを月当りにすれば、¹/₈、⁵/₁₁円である。

- 金の使途としては、約⁷/₁₀割の妻が、生活費にあてるとこたえている、中でも、日常の生活費、子供の教育資金とこたえたものが多い、後述のとおり、今後の出稼について「やめてもらいたいやめられない」とこたえているものが多いことや、出稼に関する意見の中で、「近くでみいりのよい仕事がほしい」「農業だけで生活できるようにしたい」などの意見の多いことと考えあわせられる。営農資金にするもの、借金返済にあてるものは、それぞれ15%で、貯金と答えたものは12%である。（ノ人で2項目以上答えたものがある。）夫の答えでは妻よりも営農資金に重きを置いている傾向がある。（30%）

- 夫の出稼によって、留守をあつかる妻には、営業、家事、地域社会における責任が大きく加わっている。たとえば、ふだん（夫の在宅時）にも²/₃程度の妻は、中心となって農作業をしているが、夫の出稼中は8割の妻が中心となっている。家の代表としてつきあいに出る妻は、平素は3割に足りないが、夫の出稼中は7割以上のものがつきあいに出席しなければならない立場にたち、家の中の大事なことをきめる人としては、ふだんの2割程度が、出稼中は6割5分とその増加がめだっている。また、地域社会における公的、半公的役割を夫に代って引き受けなければならない妻も2割近くある。

- 小、中学生の子供をもっている妻の半数近くは、夫の出稼が、子供に何らかの影響を与えているとみている。影響の内容は、「手っぴをよくするようになった」「しっかりして相談相手になるようになった」などよい面と、「勉強しなくなった」「やがままになった」などの悪い面の、功罪が相半はしている。

夫の方はかなりの者が子供のしつけや教育の面で非行化のおそれはな

いかと心配している。

- 出稼中の夫について、妻が最も心配していることは、「けが」「病気」であるが、夫の方でも出稼先での「けが」や病気の時の心細さや補償上の不安を訴えており、対象者ノク3人中、ノの人が怪我や病気をしたと去っている。

「酒」「女性関係」「金づかい」のほか、「行方不明」に關する心配などを少数の妻があげている。

- このような生活の中で、半数以上の妻が、夫の出稼のために何の呉で「困る」ことをもっている。「困る」こととしては、農業の面では、農機具の扱い、修理、家畜の飼育、消毒、防除などの知識技術を要する仕事や力仕事が多くあげられ、家事の面では（すべてにこまるというものが多いが）雪や台風などの災害の防備や、家族の病気、税申告などの書類に關すること、社会生活の面では、部落の賦役や冠婚葬祭の折の奉仕などが多くあげられている。一方半数以上の夫が郷里に關する気がかりをのべており、その内容は妻の困っていることと、大差ないが、ながでも家族の健康、子供の教育やしつけを心配するものももっとも多く、営農準備の心配がそれに次いでいる。

- 困ったことがあるとき、その相談をする人については、9割近くの妻が「ある」とこたえている。しかし約1割の妻は、困ったときに相談する相手をもっていない。

3. 出稼に關する意識

出稼について留守家庭の妻がどのような意識をもっているかを、夫の出稼継続についての希望や、出稼、留守家庭問題に關する自由な発言によってみれば、次のとおりである。

- 今後の出稼について、1割は、「もうやめてもらいたい」といつているが、8割のものは、積極的にしろ消極的にしろ、継続を肯定している。しかし、そのうちの5割は「やめてもらいたいがやめられない」というものである。夫も7割が「また出稼をする」といい、「もうやめるつもり」と答えたものは1割に満たない。

- 出稼や留守家族に關しての意見としては、出稼をなくすための方策をのべたものが最も多く、その内容としては、近くに（通勤範囲に）高賃金の働き場所がほしい というのが圧倒的に多い。出稼そのものについては、上記と同じく、やむをえないという消極的肯定意見がよくないという否定的意見をよまわっている。

出稼者の福祉に關することの中では、休暇帰省制度や、帰省旅費にふれたものが多い。留守家族の福祉対策としては、内取あつせん、留守家族のグループ組織づくりとその活動などがのぞまれている。

調 査 結 果

1. 出稼者と留守家族との連絡の状況

(1) 夫の帰省

(問) 御主人はこんど出稼にいかれてから休暇などでお帰りになつたことがありますか。-----

補1. これから帰られる予定でしょうか。-----

補2. できたらご主人に途中で帰ってもらいたいと思いますか。

総 数	今次出稼中夫の帰省の有無						夫の帰省についての妻の希望					
	帰 っ た	帰ったことなし				無 回 答	帰らないもの の計 わ	帰 っ て も う い たい	そ の 必 要 な し	ど う し て も よ い	そ の 他	不 明
		小 計	帰 る 予 定	帰 る 予 定 な し	わ か ら な い							
316	77	238	131	77	30	1	107	38	47	13	8	1

(留守家族調査)

夫の帰省についての妻の希望のうち「その必要なし」「その他」の中には「路銀がいるから帰る必要なし」「帰ってほしいが費用がいる」と答えたものがある。

出稼後3ヵ月以上経過したもの60名のうち「帰ったことがない」ものが25名あり「帰る予定なし」及び「わからない」ものが10名ある。(6ヵ月以上のものは25名中、それぞれ、23名、4名である。)

総数中、家族構成別には、基本家族の方が、帰ったものや、帰る予定のものが多く、地域別には、「その他の地域」が多い。

(注、「その他の地域」は一般的に出稼期間が長い。)

なお、前回の出稼中の状況は次のとおりである。

(問) (夫が出稼前歴があるものへ) この前の出稼中、ご主人は途中休暇などで帰宅されましたか。

夫に出稼前歴ある ものの総数	前回出稼期間中の夫の帰省	
	帰った	帰らない
269	158	111

(留守家族調査)

出稼者調査では夫の帰省についてはとつていないが、「休日の過ごし方」の答の中に「帰郷する」との答え14件あり、また、出稼後一度も郷里に手紙をかいていないもので、かかない理由を、「休日ごとに帰るから」「たびたび帰るから」などと答えたものが4名ある。

(2) 妻の面会

(問) 御主人がこんど出稼に行かれてから、あなたは面会に行かれましたか。-----

補1 今後行く予定がありますか。-----

補2 もし行けたらご主人に面会に行きたいと思いませんか。---

総 数	今次出稼中妻の面会の有無					面会についての妻の希望					
	行 っ た	行かない				行かないもの の計 わ	行 き た い	行 く 必 要 な し	ど う し て も よ い	そ の 他	不 明
		小 計	今 後 行 く 予 定	行 く 予 定 な し	わ か ら な い						
316	7	309	11	282	16	298	70	157	34	35	2

(留守家族調査)

「その他」の中の主なものは、「老人子供を残して行けない」「費用がかかるので」「仕事が忙しい」「あきらめている」「行先道順がわからない」などである。

なお、前回の出稼中の状況は次のとおりである。

(問) この前の出稼中 あなたが面会にいらっしゃいましたか。

夫に出稼前歴あるものの総数	前回出稼中妻の面会		
	行った	行かない	不明
269	10	256	3

(留守家族調査)

(3) 夫からの便り

(問) ご主人からの最近のおたよりはいつありましたか……

総数	最近たよりのあったもの				まだ便りなし	その他
	小計	「一週前以内」前に	「一週前以上二週前以内」前に	「二週前以上三ヶ月以前」前に		
316	258	145	106	4	40	18

(留守家族調査)

「まだ便りなし」のうち、出稼後3ヶ月以上経過しているものが1件あるが、これは「夫はたびたび帰ってくる」といつている。その他の18件については帰省したばかり、現在帰宅中などが含まれている。

なお、前回の出稼中の夫からの便りの状況は次のとおり。

(問) この前の出稼の間に、ご主人からのお便りは何回位ありましたか……

夫に出稼前歴あるものの総数	前回出稼中夫からの便りの有無回数								不明
	小計	あり	なし	不明	あり	なし	不明	あり	
269	258	15	23	123	49	40	4	16	1

(留守家族調査)

(21)

出稼期間によって異なるが夫からの便りが月1回～2回の割合であったものが50%～80%を占めている。

なかったものは出稼期間3ヶ月未満のものや3ヶ月以上6ヶ月未満のものなど、比較的に出稼期間の短いものに多い。

出稼者調査で夫(出稼者)に家庭への通信状況をたずねた結果は次のとおりである。

(問) あなたはおうちにしばしば手紙をおかきになりますか……

総数	週/回以上	月/回以上	たまにか	まだ/度も	その他
173	34	122	11	5	1

(出稼者調査)

注) その他は「必要に応じて出す」

まだ/度もかいていないものが、かかない理由は「近いのでよく帰るから(休日ごとに、1カ月に10回位、月に1～2回、たびたび)」「両親がいて心配なことはないから」といつている。

4. 留守家族から夫への便り

(問) あなたはご主人に手紙をおかきになりましたか……

(小中学生の子供のある人へ) 子どもさんは出していますか……

他のご家族の方はどうですか……

(22)

総 数	手 紙 を 出 し た							出 さ な い		
	小 計	妻が出したもの					子 と 家 族		子 と 家 族	
		妻 の み	妻 と 子	妻 と 家 族	妻と 子と 家族					
316	252	239	101	95	19	24	3	6	4	64

(留守家族調査)

注) 。子は小中学生の子供

。家族は小、中学生の子供を除いた家族。

出稼後3カ月以上経過しているもの(6カ月以上、1年以上を含む)で「たさない」ものが6件ある。

なお、前回の出稼中の留守家族からの通信の状況は次のとおりである。

(阿) この前回の出稼中あなたやご家族の方から、ご主人に何回位お手紙を出されましたか、-----

夫に出稼 前歴あるもの の総数	前回出稼中留守家族からの手紙の有無回数								
	出 し た							出 さ な か つ た	不 明
	小 計	1回	2回	3 ~ 6	7 ~ 12	13 ~	不明		
269	245	17	23	104	50	43	8	22	2

(留守家族調査)

手紙を出す頻度は、夫からの便りの頻度と大差はない。

「出さなかった」もののうちわけは、出稼期間3カ月未満のもの6、3カ月以上6カ月未満のもの9、6カ月以上1年未満のもの5。

1年以上のもの1 期間不明のもの1である。

(5) 夫からの送金方法

(阿) ご主人のむこうで稼がれたお金は途中で送金してくるの
ですか、それともお帰りの時をもってこられることになって
いるのですか、-----

総 数	途中で送金 してくる	帰宅時に 持参する	わからない	無 回 答
316	211	87	17	1

(留守家族調査)

なお、前回の出稼中の状況は次の通りである。

(阿) この前回の出稼のとき、ご主人からの送金が途中でありま
したか、-----

夫に出稼前 歴あるもの の総数	前回出稼時の夫の送金									
	途中で送金あり及び回数							終 帰 時 の み	そ の 他	不 明
	小 計	1回	2回	3 ~ 6	7 ~ 12	13 ~	不明			
269	195	35	32	92	24	4	8	69	4	1

(留守家族調査)

出稼期間3カ月未満のもの40%は「帰宅時のみ」であるが、
期間が長くなれば途中送金したものの率が高くなっている。

地域別には、単作地域では32%が、帰宅時に持参しているが、そ
の他の地域では17%である。

途中で送金したものの送金の頻度は、約半数が月1回程度である。

一方、出稼者調査で夫(出稼者)に家庭への送金方法についてたづ

ねた結果は次のとおりである。

(問) あなたは、おうちへ毎月送金なさいますか、それともお帰りのときおもちになりますか、-----

係数	毎月送金する	毎月ではないがときどき送金する。	送金しないで帰るとき持参する。	注) その他	不明
173	124	13	34	1	1

(出稼者調査)

注) 「その他」は農協へふりこむ。

(6) その他の連絡方法

(問) 出稼中のご主人に、手紙や面会など自分で連絡するほか、に何か別の方法で連絡されることがありますか(MA)----

総数	別になし	面会に行くほかの家族やしんせき知人が	留守家族代表がまどろく連絡する。	村や農協など	がしてく北る。	その他の方法	不明
316	272	23	4	5	8	1	

(留守家族調査)

「その他の方法」は、同村の出稼者がノ時帰酒の折連絡する。

小学校で機関誌を発行する、などである。

留守家族代表の連絡は「その他の地域」(鹿児島、徳島、長崎、大分)のみが、村や農協の連絡は「単作地帯」(山形、秋田)のみが答えている。

(25)

2. 出稼が家庭に及ぼす影響

(1) 家庭経済に対する寄与

イ、家にいれる金額

問 ご主人はこんどの出稼でどれくらいの金額をおうちにおいれになる予定ですか。(妻の期待)

総数	3万円以下	3万~5万	5万~10万	10万~20万	20万~30万	30万以上	不明	平均
316	25	28	106	75	17	6	59	94,412

(留守家族調査)

注) 不明の中には送金月額を答えているが出稼期間が不明のため、不明となったもの13件がある。複合世帯の場合、夫の親あてに送金があり、妻にはわからないというものもある。総数の月平均金額は、出稼期間の平均が、5.1万円であるので、10,511円となる。期間中の平均金額は「単作地域」は67,111円、「その他の地域」は105,363円であるのが、月平均はそれぞれ20,258円、16,994円となる。

一方出稼者調査で夫(出稼者)に今次出稼期間中家にいれる予定金額をたづねた結果は次のとおりである。

問 出稼期間中をとおして、どれ位の金額をおうちにおいれになるおつもりですか。(夫の計画)

総数	3万円以下	3万~5万	5万~10万	10万~20万	20万~30万	30万以上	不明	平均
173	1	2	63	63	15	14	15	136,642

(留守家族調査)

(26)

出稼者調査

注) 不明の中には「給料が低いのでいくらにもならない」「税の対象になるから いえない」の月額又は年額をこえたものがある。

これを前記の留守家族調査の中から抜き集計した結果は次のとおりである。

問. 主人はこんどの出稼でどれくらいの金額をおうちにおい
れになる予定ですか。(専の期待)

総 数	3万円 以下	3万 ~5万円	5万 ~10万円	10万 ~20万円	20万 ~30万円	30万円 以上	不 明	平 均
173	6	14	61	43	10	4	31	14,330

(留守家族調査より抜き集計)

ロ. 金の使途

問. そのお金は何に使う予定ですか。(専の計画)(MA)

総 数	営 農 資 金	生 活 費	借 金 返 済	税 金 納 付	貯 金	夫 小 づ か い	別 に あ る もの	そ の 他	わ か ら ない	無 回 答
316	446	282	46	11	37	8	5	4	2	1

(留守家族調査)

注) 1人で2項目以上答えたものがあるので、合計は総
数と一致しない。生活費の中では、日常の生活費が
153、子供の教育資金が134で、家屋修繕等(新
築費をふくむ)がこれについて41である。

借金返済では、営農関係のものが、27である。

わからない2は、しうとが財布もちと答えている

(その他の中に、次の出稼の旅費と答えたものが1件ある。)

使途は地域によって差があり、営農資金と答えたものは「単作地

域」では、20%あるが、「その他の地域」では、9%であり、生
活費は「単作」が、65%、「その他」では96%。借金返済は「
単作」11%、「その他」で 19%のものが答えている。

税金納付と答えたものは、殆んどが「その他の地域」で、貯金は
「単作地域」の率の方が高くなっている。

生活費の中で、教育資金、日常の生活費が、「その他」では、それ
ぞれ53%の率をしめして、いずれも「単作」の率より高くなつて
いるが、家屋修繕費、耐久消費財購入とこたえたものの率はいずれ
も「単作」の方が高い。

家族型別には、複合家族が単作地帯と同様の傾向をしめし、基本家
族はその他の地帯と似た傾向にある。すなわち基本家族が複合家族
より高い率を示している主な使途別費目は、生活費(生活費の中
では、子供の教育資金、日常生活費)借金返済で、複合家族の方が、
基本家族より高率なものは、営農資金、貯金などである。(ただし
その差は地域別よりもやや少ない。)

一方出稼者調査における夫の答は次のとおりで、対象範囲が異なる
ため、妻と直接の比較はできないが、夫は妻より営農資金に重きを
おき、妻は生活費や税金納付により重点をおいている傾向がみられ
る。

問. そのお金は何に使う予定ですか。(夫の計画)(MA)

総 数	営 農 資 金	生 活 費	借 金 返 済	貯 金	別 に あ る もの	帰 る 相 手 の もの
173	51	148	26	12	1	1

(出稼者調査)

注) 1人で2項目以上答えたものがあるので合計は総数と一致しない。

(2) 専にかかると負担

イ、営農において

問、ふだん(ご主人が家にいらつしやるとき)おたくで農業を
主になつてしていた方はどなたですか。

- (1) 作付など営農計画をたてる人は、
(2) 実際の農作業を主になつてする人は

	総 数	在 宅 者				出稼者(ふくむ)				(注) その他
		小 計	本 人	本 人 の 家 族	本 人 の 家 族 以外	小 計	夫 と 本 人	本 人 の 家 族	本 人 の 家 族 以外	
営農計画	316	66	40	1	25	209	22	25	7	9
農作業	316	76	56	3	17	171	60	60		9

(留守家族調査)

注) その他は非農家及び殆ど営農のないもの

補1. その人の留守のあいだはだれが中心になりますか。

	ふだん(ご主人が家にいらつしやるとき)おたくで農業を主になつてしていた方はどなたですか。	本 人	本 人 の 家 族	本 人 の 家 族 以外	(注) その他
営農計画	241	164	8	43	26
農作業	231	181	11	24	15

(留守家族調査)

注) その他は「冬期には計画や作業の要なし」「出発前
にすましておく」「手紙で相談する」「人をやとう」
「計画たらず」などである。

営農上出稼者が中心となつていた責任は、その出稼中、営農計画
では、68.0%が妻にかかつてきており(家族と共に負担するもの

を加えれば、71.0%) 農作業では78.0%(家族と共にを加えれば
83.0%)が妻の負担となっている。

すなわち、下表の通り出稼のないふだんの時に、営農計画を主と
なつてしている妻は13%(家族と共にをふくめれば21%)であ
るが、出稼中には65%(67%)が、その責任をとることになる。
(地域別には単作地帯で、ふだん5%の妻が主となつていたものが
出稼中には58%、其の他の地域では22%であつたものが、84
%となり、家族型別には基本家族の19%の妻が83%に、複合家
族の8%が、57%と責任をとるものかふえている。)

	総 数	ふ だ ん				出 稼 中			
		妻が中心となるもの			そ の 他	妻が中心となるもの			そ の 他
		小 計	本 人 の 家 族	本 人 の 家 族 以外		小 計	本 人 の 家 族	本 人 の 家 族 以外	
営農計画	316	66	40	26	250	213	204	9	103
農作業	316	117	56	61	199	251	237	14	65

(留守家族調査)

又、農作業については、ふだんの18%(家族と共にをふくめれ
ば37%)が、出稼中には75%(79%)となつていいる。(単作地帯
では11%より20%に、其の他の地域では27%より47%に、
そして、家族型別では基本家族の25%より92%に、複合家族の
13%より69%へと妻の責任負担はふえている。)

ロ、家庭管理において

問、ふだん(ご主人がおうちにいらつしやるとき)おたくの家
の事を中心になつてしていた人はだれですか。

- (1) 家計担当者(財布もちの人)

(3) 家の中の大事なことをきめる人

(留守家族調査)

問 その方の留守中はどなたがしていますか。

(留守家族調査)

家庭管理に関する事で、出稼者が中心となつてゐた責任はその出稼中、家計担当責任では66%が専らうつており、つきあひに関する事では61%（他の家族と共にをふくめれば64%）、家の大事なことを決定する場合には79%（64%）が専ら責任となつてきている。

出稼のない平素、家計担当者としての責任を44%の専か本人のみで(家族と共にを加えれば52%)とっているが、出稼中には33%の責任をとることになる。

つきあいなどに出る専は平素は22% (27%) であるが、出稼中には69% (71%) となり、また家の中力大事なことをきめる人としては、ふだんの12% (21%) が出稼中は62% (65%) とその増加が著しい。(下表参照)

(留守家族調査)

ハ 地域社会の生活において

問。ご主人はお衆にいうつしやるとき、消防団とか、村や部落などの何か「役」をしていうつしやいましたか。

(留守家族調査)

問 その役のうち、留守中あなたが引うけているものがありますか

(留守家族調査)

注) 産業関係は 農協、農業共済連、養蚕組合、森林組合、土地改良区、開拓組合、耕耘機組合等をふくむ。

地域集団関係は 部落会、町会、などの役員、民生委員、消防団等をふくむ。

教育関係は PTA、青年団、役員

問 役というのではないが、ご主人に代つてあなたが村や部落のことでなければならぬことがありますか。

総数	ない	ある	不明
316	229	75	12

(留守家族調査)

夫に代つてしなければならぬこととして、次のようなことがあげられている。(M.A)

○ 部落の共同作業 41

道路作り、修理、山仕事(植入、雑草刈などの手入れ)

雪かき、雪きり、水路のせわ、溝掃除、寺社の奉仕、そ

の他の出賦日役等

○ 部落会出席 16

○ 冠婚葬祭、家のふしん等における相互扶助奉仕の仕事 5

○ その他

部落のせわ、会合のせわ、となり組当番、輪番の班長、

文書回覧、配布その他連絡伝達の仕事、PTA関係、国

勢調査員、衛生係、農事に関すること、消防機械の点検

部落のつとめのすべて など

夫の「役」のうち出稼中妻が代役としているものは、夫が「役」をもつもののうち20%で、これは総数の7%であるが、いわゆる「役」以外のことでは総数の24%が、妻の責任にかかっている。「役」の代役と「役」以外の仕事を引受けているものとは重複しているので、夫の出稼により、地域社会の生活について何らかの事に加重される仕事があるものは、次表のとおり19%であるが、地域別には単作地帯で21%、家族型別では基本家族の27%である。

	総数	仕事に加重あり	仕事に加重ない
計	316	60	256
単作	179	39	140
その他	137	21	116
基本	131	36	95
複合	105	24	81

なお、数が少ないが、夫の「役」のうち妻が「代役」をする役職の内容別に一つの傾向がみられる。即ち、教育関係(PTAなど)が最も多く、引受けられ、村、部落などの生活集団での世話役がこれに次ぎ、産業関係の役割は最も少ない。(産業関係のものを引受けているものも、諸経費の徴収や機関紙の配布等その仕事の一部だけを引受けている。)

(3) 子供(小、中学生)への影響

問 (小中学生の子どものある人へ)ご主人の出稼が子どもさんへに影響していると思うことはありませんか(よくも悪くもですが)

小 中 学 生 の 子 の 数	影 響 は な い	影 響 あ り	影 響 ありの内容 (M.A)					そ の 他 ^(注)
			手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い	手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い	手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い	手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い	手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い 手 伝 い な い	
235	134	101	41	24	14	39	23	

(留守家族調査)

注) その他としては、淋しがる、甘えがち、早くかえってほしいと云うなどのあらわれ方をしているもの(ノ3) よく勉強するようになった、兄妹仲よくなってきた、いうことをよくきく、心配させないよう気をつなっているなど(タ) 落ちつきなくイライラしている、反抗期で困ることがある、夜遊びにでるなど(3) しかる人がなくノンキになった(ノ)のほか、勉強をみてやれない、高校進学について父と相談できなかった(2)ことをあげている。

地域別では「その他の地域」の方が 家族型別では、複合家族の方が、影響ありと答えたものの率が高い

(4) 夫不在のために困ること

問 ご主人がお留守のため営農に困ることはありませんか
ご主人がお留守のため家の仕事のことで困ることはありませんか
ご主人の留守のため村の仕事とか部落のつきあいなどのことで困ることはありませんか
そのほかご主人の留守のために心配なことや困ることはありませんか

総 数	営 農 上				家庭管理上			社会生活上			その他全般的に		
	困 ら ない	困 る	困 ら ない	困 る	困 ら ない	困 る	困 ら ない	困 る	困 ら ない	困 る	困 ら ない	困 る	困 ら ない
316	204	25	28	9	231	81	4	258	54	4	242	69	5

(留守家族調査)

地域別に見ると各項目とも、単作地域よりその他の地域の方が困ると答えたものの率は高く、特に営農上と社会生活上の困ることでその他の地域の率が高くなっている。

家族型別では、複合家族の方が「家庭管理上」と「その他」の項で、基本家族よりも高くなっている。

各項目別に困っていると答えたものの中には重複しているものもあるので、夫の留守により項目の如何をとわず、何らかのことで困っているかどうかは、下表の通りである。

総 数	困 る	困らない	不 明
316	170	138	8

(留守家族調査)

単作地域では45% のものが何らかのことで困るとたえており、その他の地域は65%が困ることがあるといっている。

なお、夫が出勤前歴のあるものについて前回出勤中に一番困ったことについてたづねたが、こまったことの有無は、次の通りである。

夫に出勤前歴 あるものの総数	こまったこと あり	な し	不 明
269	149	117	3

(留守家族調査)

当然のことながら出稼期間が長くなるにつれて困ったことありの
占める率は高くなっている。

前回の出稼中一番困ったことの内容としては、ノタ名（名）のものが
ノタ子（子）項目にわたって、次のようなことをあげている。

一番困ったことのうちわけ（M・A）	営農上のこと 堆肥はこび、整地百代作り（とくに雪中ビニール張り） 雪中の運草種まき、田植準備、稲の薬剤散布、力を要 する作業など、田、畑の作業 家畜の飼育 その他営農計画、農繁期の人手不足をふくむ農業全般	29
	家の中のこと 本人及家族の病気（怪我） 自然や災害の防備及び被害の処置（雪おろし、雪除、 雪ぶみなど、台風の被害、近所の火事） 子どもの教育、措置など。（進路決定、級談、非行化 など） 家計の問題（送金の少ないこと、おくれるこ とをふくむ） 力仕事、人が雇えないことで妻が労働 過重になること（家事、農事をふくむ） その他家族間の不和および日常生活の不安感（女世帯 の不用心、災害時の心配、相談相手のない心細さ、手 紙の字がよめない、新嘗早々で生活になれないことなど）	102
	社会生活のこと 近所、親戚づきあい、冠婚葬祭（特に不幸）に男手がないこと 部落共同作業（役なたてこんだとき、男女差の強制など） 公的な書類その他の用件（税金、農協関係など）	32

今回の出稼中においても、前回と大同小異でこまっていること
のとくにあげているものは、次のような事項である。

〔営農上こまること〕

農作業のうち力のいや仕事や技術を要する仕事（たとえば、
深耕、急勾配の畑に肥料をあげるとき、農機具の使用や修理、
家畜の扱い、肥料の配合、消毒作業など）や営農計画、更に全
般的な人手不足による妻の過労など。

〔家庭生活上こまること〕

雪や災害に対する防備、家族の病気、税の申告など公的な書
類、家計の問題、その他、家事一切について、相談相手がない
ことなど。

〔社会生活上こまること〕

部落の共同作業や奉仕作業にでる人手がないこと、女では無
理なこと、更に女子の出稼は都合あるいはク令役として扱われ
ることなどが最も多く、冠婚葬祭、ふしんなどの際のつきあい
も同様で困るという声が多い。その他、組合での重要事項に
賛否をきめかねること、金合や作業に出ることが多くて困る、
何かと不便など。

〔その他全般的に困ること〕

子どもの教育しつけ、進路決定等の心配、家庭の健康につい
での心配（病人をかくえている、年よりがいる、子どもが小さい）
家族間の人間関係、（姑とのこと、子と祖父母のずれ、姑が財布
もちで小づかいがないこと、夫に仲に入ってもらえないこと）
経済面の心配（借金に関すること、子供の治療費のこと、自分に
家計責任がかかっていること）、災害に対する不安、その他、漢

然る精神的な負担と思われるものなど。

(5) 夫の留守中の専の相談相手

問 ご主人の留守中困ったこと、心配なこと、大事なことから
について相談される相手がありますか。

総 数	あ る	な い	何とも いえない	不 明
316	276	31	8	1

(留守家族調査)

相談相手については67%がありと答えているが、ノ割近くのもの
が、相談相手がないといっており 答えをためらっているものを
ふくめれば12% になっている。(特に地域別には「その他の地域」
が「ない」ものが12% (何ともいえないをふくめれば15%) で
「単作地域」より高い、(単作地域は「ない」もの6%、何ともい
えないをふくめて10%) 家族型別では、基本家族が「ない」も
の6%、13%、「何ともいえない」をふくめて14%で、複合家族よ
り高くなっている。複合家族は「ない」もの4%「何ともい
えない」をふくめて9%)

相談相手がある276名の専がだれに相談をするかは、次のとお
りである。

相談相手があるもの計	だれに相談するか (M/A)										(注) その他
	同居の家族					別居の親せき					
	小計	夫の父母祖母	本人の父母	子供	その他	小計	本人の父母兄弟姉妹	夫の父母兄弟姉妹	その他		
276	139	105	5	22	7	125	47	30	58	27	

(留守家族調査)

注) 近の他住近所の人(19)、本人の友人(4)、夫の友人、
仲人、民生委員、部落組合長(各1)である。

このことは、当然のことながら家族型によつて著るしい差がみら
れる。

(6) 郷里に関する夫の気がかり

これまでの夫の出稼によつて、専にかかっている負担、子供への影
響、夫不在のために専のこままっていることについて、留守家族調査で
の専の答からみたが、夫の側の郷里に関する気がかりは次のとおりで
ある。

問 ご郷里のこと、たとえば学費のことやご家族のこと、村
や部落の仕事先のことなど、気がかりになつていらっしゃるこ
とがありますか

総 数	何 も な い	気がかり なことが ある
173	74	99

(出稼者調査)

これを前出の留守家族調査で、専が夫の留守のため何らかのこ
とで困ることの有無について、出稼者調査集計該当者の専のみの分を
抜き集計すると次のとおりとなる。

総 数	困らない	困ることあり
173	86	87

(留守家族調査より抜き集計)

夫の郷里に関する気がかりの内容としてのべたことは、次のような項目で、妻の困っていることの内容と大差はない。()は当該項目をあげたものの数)

〔営農上のさがかり〕

秋のとり入れのあと仕末(7) 次の営農準備(28) 冬のあるいたにしなければならぬこと(10) 現在の農作業の進捗状況(1)、家畜の世話ができていない(1)

〔家族及び家庭生活に関するさがかり〕

家族の健康(58) 子供のしつけ、教育(49) 火の用心、戸閉り(4) 除雪作業(3) 税金関係(3) 妻がひねくれることはないかなど、別居による家族の人間関係(4) 家族の生活費のこと(2)

〔社会生活上のさがかり〕

消防団、部落役員などの責任(4) (とくに妻が代行していることに対してのさがかり(1)) 道ぶしんのこと(1)

3. 出稼中の夫の生活と妻の心配

(問) 出稼しているご主人のことでどんなことが心配ですか

MA-----

総 数	別 にな い	心 配 ご と あ り	心配ごとの内容 (MA)					
			怪 我	病 気	酒	女 性 関 係	金 づ か い	そ の 他
316	17	299	231	216	23	6	5	5

(留守家族調査)

注) 心配ごとの内容は一人で2項目以上答えたものがあるの

で合計数は「心配ごとあり」の数と一致しない。

このような妻の心配に対し、出稼中の夫の状態を、出稼者調査の結果からいってみる。

(1) 病気、怪我

(問) 出稼にでられてから元気にすごしていますか。仕事を体ひ

ような病気や怪我をなさったことはありませんか----

総 数	無事に元 気でいる	病気を した	怪我を した	そ の 他
173	160	5	5	3

(出稼者調査)

(2) 職場の人間関係

(問) 今の職場に、あなたのご家族や、しんせきの方、あ

るいは同じ村の人がいらっしゃいますか、---

総数	集 団 就 職	家族やしん せき、村の 人がある。	た だ も い な い
173	60	94	19

(出稼者調査)

なお、出稼についての自由な意見の中で、同じ職場に同郷者や、しんせきなどがあるので淋しくない、安心して働ける、心強い、などと答えている。

(同) 職場で一しよに働いている上役とか、同僚の人たちとうまくいっていますか。

総数	うまくい っている	まあまあよく いっている	うまくいかない ことがある
173	151	20	2

(出稼者調査)

(3) 小づかいの額と主な使途

(同) あなたは酒たばこなどふくめて、月どれくらい小づかいをおつかいになりますか。(宿舍費や食費などをふくめません)

総数	～ 千円	1000円 ～	2000円 ～	3000円 ～	4000円 ～	5000円 ～	6000円 ～	7000円 ～	10,000円 ～	平 均
173	3	16	27	50	17	38	12	6	4	3800円

(出稼者調査)

(同) 主に何におつかいになりますか (M. A)

主 な 使 途	回答数	内 容
たばこ	120	
酒	81	
日用品身用品	43	衣類、下着、手袋、作業衣等
食 費	38	日常食費(事業所)を除く、同食代、副食代、家庭食代、外食代
娯楽娯楽費	43	映画(19) 本雑誌(5) 旅行見物(2) 娯楽カマラ(2)、パチンコその他の娯楽費(15)
帰省旅費その他の交通費	9	
交 際 費	3	
雑 費	17	入浴、献金、郵便料、薬代(栄養剤、皮膚回復剤)

(出稼者調査)

(4) 全暇のすごし方

(同) あなたは仕事の休みの日には主にどんなことをしてすごされますか (M. A)

休日、夜などの暇な時のすごし方として、調査票に掲げた16項目の中身のまわりの整理とテレビを見るが最高で(38～39%)、手紙書き(33%)、ごろ寝(31%)、読書—娯楽本(26%)、映画、パチンコ、親類訪問、帰郷、見物、囲碁、其の他の順となっている。

(同) 夜などひまなときはどうしておすごしですか (M. A)

夜は正倒的にテレビを見る(73%)が多く、雅談(38%)、

手紙かき(27%)、読書(23%)等がついている。

(問) この前の休日にはどうすごされましたか。

この前の休日のすごし方をみると、ごろ寝が1番多く(20%)
テレビを見る、身のまわりの整理をする、映画をみる、滞客するな
どが次いている。

休日がないと答えた者が17人(10%)あった。

総 数	ノ 身 の ま わ り	テ レ ビ	3 買 物	4 映 画	5 パ チ ン コ	6 こ し や う ぎ	7 手 紙 書 き	8 ご ろ ね	9 読 書	10 雑 談	11 知 人 訪 問	12 帰 郷	13 見 物	14 道 具 整 備	15 そ の 他	16 休 日 が な い
173	67	63	19	32	26	8	54	51	47	44	20	14	10	4	9	17

(出稼者調査)

注) その他は、散髪、散歩、ラジオ、画をかく、飲酒、食事作
り、送金事務である。

(5) 取場や日常生活で困ることの有無

(問) 取場のことや日常生活のことで困ることや不自由なことは
ありませんか。

総 数	別に不自由で ない(困らない)	いくらか不自由 (いくらか困る)	不自由なこと あり(困ることあり)	無 回 答
173	119	33	20	1

(出稼者調査)

不自由なことあり(いくらか困る者も含める)と答えた者は30%。
あるが、不自由なことの内容の中、身のまわりの始末がめんどろと
答えた者が殆んどで、ノ部の者が性生活の不満や金銭の不足を訴え
ている。

(45)

4. 出稼に対する夫と妻の意識

(問) 一口にいつてあなたは出稼に出てよかったと思いますか。
それともよくなかったと思いますか。

総 数	よ か っ た	よ く な か っ た	ど う も い え な い	そ の 他	回 答 な し
173	112	12	43	5	1

(出稼者調査)

注) その他の内容

出稼しなければ生活も出来ないのだから何も考えない (2)
昔からの風習で何とも思わぬ、はじめてで分らない、まあま
あ普通

(全員に) 出稼に求られて (全員に) 出稼にでたために
よかったと思うことはど よくなかったと思うことはど
んなことですか。 んなことですか。

よかったと思うことを回答したもの計(69)		よくなかったと思うことを回答したもの計(10)	
よ か っ た と 思 う こ と	収入が増加家庭生活が安定した 14 労働条件や労働環境に満足 20 見聞が広まり勉強になる 20 その他生活が自由でよいなど 15	よ く な か っ た と 思 う こ と	家庭によくない影響がある 37 労働内容や労働条件に問題がある 14 営農上よくない 9 その他(家に居る方が楽、休 みになると見物に出て金がある。 何となくよくない、(2)など) 4
よかったと思うこと無し、及無回答のもの計(23)		よくなかったと思うこと無し、及無回答のもの計(46)	

(出稼者調査)

(46)

出稼に出てよかったと思うと答えた夫の数は全体の 65% で、地域別、家族型別にみても変りはない。よかった事では収入がふえて、家庭生活が楽になったというものがさわだって多く、よくなかったと思うことでは家庭への悪影響を答えたものが多い。

(1) 今後の出稼希望 (夫および妻)

(問) 今度帰ってから、また出稼に出ようと思われませんか、それともこれでは止めたいと思われませんか。

総 数	また出稼 するつもり	今度 は やめるつもり	何とも 分らない 何とも 云えない	その他
173	123	13	30	7

(出稼者調査)

注) ※ 其の他は、来年は出られない。(屋根を直さねばならぬ、部落の役の当番だから) 土地に仕事があればやめる。現在のつとめ先に常用雇用的に出る。無記入となっている。

すなわち、70% の者が「また出稼するつもり」となっており、はっきり「やめるつもり」と答えたものは 8% にすぎない。

一方今後の出稼について妻の考え方を聞いた結果は次の通りである。

(問) ご主人の出稼は今後もつづけてほしいと思いませんか、できればやめてほしいと思いませんか。

(47)

総 数	つづけて もらいた い	やめても らいた いが やめられ ない	もうやめ てもら いたい	何とも 分らない	(注) その他
316	110	130	32	13	11

(留守家族調査)

注) その他は、今回だけでやめる、出稼に代る仕事を考慮中、行方不明になる位ならやめてもらいたい、どちらでもよい、などのほか、村の人が行くので、知人に頼まれるからなど、「やめてもらいたいがやめられない」に分類されるもの(4)。夫の希望ならば、楽な仕事ならばなど条件つき継続希望のもの(3) などである。

地域別にみれば、積極的にしる、消極的にしる、継続を肯定しているものが、「単作地域」では 23.0% に比し、「その他の地域」では 40% を占め、逆に「もうやめてもらいたい」と意志表示したものは「単作地域」の率が高い。

家族型別には続けることを肯定しているものは、基本家族の 86%、複合家族の 86%、複合家族の 90% で、「やめてもらいたい」ものは 6%、13% である。

前述の夫留守のため困ることについて、「単作地域」よりも高い率をしめした、「その他の地域」の方が継続を肯定する率が高いという結果がみられる。

(2) 出稼や留守家族についての意見

(内) (妻へ) そのほか出稼や留守家族のことで何でも遠慮なくおっしゃって下さい。

(以下項目ごとに主要意見のみ記入)

I. 出稼についてのべたもの累計	153
(1) 出稼に対する積極的・肯定的意見をのべたもの (6)	
父母健在な町は出稼をする。 ○ 出稼という感じをもっていない。 ○ 昔から出稼の村であるから世間もみとめ自分も承知の上で結婚している。	
(2) 出稼に対する消極的・肯定的意見をのべたもの。 (23)	
○ 子供の教育費を得るためやむをえない。 生活が苦しいのでやむを得ない。 ○ 農業だけではくらず、近くに働き場がないから止むを得ない。 ○ 現金収入をえるためやむをえない。 ○ 村の人や仲間がそろって行くので行きたくないのだがやめられない。	
(3) 出稼に対して否定的意見をのべたもの (76)	
○ 家族一結にくらしたい (わずかなお金を得てくるより家にいてもらいたい)。 ○ 出稼をしなくて暮せるようになりたい (農業だけで生活出来るようになりたい)。 ○ 子供達のためにも出稼はよくない (成長するにつれて父の不在を気にする)。 ○ 夫の健康が心配なので出稼したくない。	

(4) 出稼をなくすための方策についてのべたもの (91)

- 近くに働き場がほしい (県内又は近県通勤圏内など、工場誘致をのぞむをふくむ)。
- 冬期地元で臨時の仕事がほしい (内職、副業、通勤出来る職場を)。
- 近くでの仕事の賃金を高くしてほしい。
- 常勤の職場がほしい。
- 農業収入が高くなればよい。

(5) 出稼者の福祉対策についてのべたもの (17)

- 月ノ国は帰してほしい、月ノ国の休暇日数をもう少し長く。
- 帰省回数をもっとふやしてほしい。
- 帰省旅費は会社でみてほしい。

2. 留守家族の生活実態や福祉対策についてのべたものの累計 21

(1) 留守家族の生活実態についてのべたもの (8)

- 息子達は別居 (就労) 妻一人養った生活は精神的負担が大い。 (相談相手がなく不自由をふくむ)。
- 夫がいないと他の家族に金計費をつかう。
- 子供達が助けをくれるようになった。
- マスゴミが出稼問題でさわるので荷物がせまい思いがする。

(2) 留守家族の福祉対策についてのべたもの (13)

- 割賦のよい内職をあっせんしてほしい。
- 留守家族の会を作してほしい (雪おろしなど共同作業できるように、をふくむ)。
- 夫の職場をグループで見学できたらと思う。

出稼や留守家族についての意見

(男) (夫) その他出稼についてお感じになった
ことや、事業所や役所、其の他会社
に対しての希望や意見があったら何
でもおっしゃって下さい。

(主要意見のみ記入)

1. 出稼についてのべたもの、累計	80
(1) 出稼に対する積極的・肯定的意見をのべたもの (13)	
○ 出稼は昔からの習慣なので当然のことである。	
○ 収入をえる道は出稼が最適	
○ 出稼はつらくはあるが、自由時間はあるし、農繁期には仕事が 休めるので心配はない。	
(2) 出稼に対する消極的・肯定的意見をのべたもの (12)	
○ 農業だけではやってゆけないので仕方がない。	
○ 現金収入がほしいのでやむをえない。	
○ 冬期は雪が深く仕事がないので出稼はやむをえない。	
○ 家族と一緒に暮らしたいがやむをえない。	
(3) 出稼に対して否定的意見をのべたもの (5)	
○ 家族と別れて暮すのはよくない、出稼をしなくて暮せるようにな りたい。	
○ 出稼をしなければ農業経営も成り立たないので出るが、本来の 事なら無理でくらしたい。	
今後の出稼について方針をのべたもの (12)	
元気な間は出稼に出たい	
子供が学校(高校)卒業までもう2-3年つづけたい。	

(51)

屋根の修理のため金がほしいので出稼をつづける	
(4) 出稼をなくすための方策についてのべたもの (23)	
○ 家族とはなれないでよい賃金を得たいので近くか、せめて県内 に出稼先がほしい。	
○ 出稼をしなくとも農業が出来るように、工場跡地、土地改善事 業等の農業対策を強化してほしい。	
○ 農村の生活が希望がもてるものにしてほしい。	
(5) 出稼者の福祉対策についてのべたもの (15)	
○ 各種社会保険の適用をのぞむ。	
各市町村に季節労働者のため就業相談所をつくってほしい。	
○ 出稼者の統一的賃金協定をのぞむ。	
○ 出稼に出なければやってゆけない現実を知ってもらいたい。	
2. 留守家族の生活実態や福祉対策についてのべたもの累計 14	
(1) 留守家族の生活実態についてのべたもの (12)	
家庭および家族に関すること	
○ 子供(小、中、高校生)のことが気にかかる。	
○ 家族の健康が気にかかりである。	
○ 別居は感心しないがやむをえない。	
農業に関すること	
○ 郷里に男手がなく心配である。	
○ 3月はじめ帰郷すれば苗代にも田にあう。	
○ 多角至営とか、農業の企画化も資金がなくては出来ない。	
○ 開拓地に入植して耕作したが、僅かの土地しか耕作出来ず、生 産はあがりなかった。	
(2) 留守家族の福祉対策について (2)	

(52)

- 出稼家庭に、その生活程度に応じて何らかの補助をしてほしい。
- せめて子供の教育費の一部を国で負担してほしい。

3. 現在の労務生活についてのべたもの。

28

労務条件に関すること

(18)

- 賃金をあげてほしい。
- 作業時間の短縮をのぞむ。夜間の作業はつらい。
- 賞与がほしい。帰省旅費の補助をのぞむ。
- 健康管理の配りよを 疲労 即 事故の心配がある。
- 白ろう病の発生をおそれる。

福利厚生に関すること

(18)

- 短期雇用のため国民保険にかかっているが、健康保険の加入をのぞみたい。

- 作業場に風呂場がほしい。寮に娯楽設備(テレビ)がほしい。

取場の人間関係に関すること

(7)

- 従業員の使用方を考えてほしい。仕事以外は労使は対等である。
- 取場に同郷者が多く心強く安心である。

その他

(5)

- 安定した取場がほしい(仕事が途中でされる。雨天の時は作業がなくなる)